

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第40週 2023年10月2日（月）～ 2023年10月8日（日） 2023年10月12日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

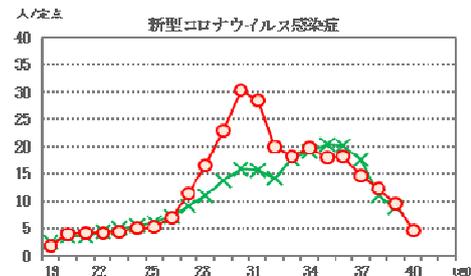
（1）インフルエンザ

第40週の報告数は566人で、前週より150人少なく、定点当たりの報告数は8.09であった。本調査における年齢別では、10～14歳（135人）、7歳（54人）、8歳（49人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（14.82）、県北保健所（13.25）、県央保健所（12.91）であった。



（2）新型コロナウイルス感染症

第40週の報告数は331人で、前週より331人少なく、定点当たりの報告数は4.73であった。本調査における年齢別では、80歳以上（55人）、10～14歳（37人）、40～49歳（34人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（27.33）、壱岐保健所（13.00）、対馬保健所（5.33）であった。



（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第40週の報告数は92人で、前週より9人少なく、定点当たりの報告数は2.09であった。本調査における年齢別では、6歳（15人）、10～14歳（15人）、8歳（14人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（11.20）、佐世保市保健所（2.33）、県央保健所（2.00）であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第40週の報告数は566人で、前週より150人少なく、定点当たりの報告数は8.09でした。地区別にみると、佐世保地区（14.82）、県北地区（13.25）、県央地区（12.91）は他の地区より多く、注意報レベル基準値「10」を超えています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第40週の報告数は331人で、前週より331人少なく、定点当たり報告数は4.73でした。地区別では、上島地区（27.33）、壱岐地区（13.00）、対馬地区（5.33）は他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。令和5年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が「新型インフルエンザ等感染症」から「五類感染症（定点把握）」に変更されました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第40週の報告数は92人で、前週より9人少なく、定点当たりの報告数は2.09でした。地区別にみると県南地区（11.20）、佐世保地区（2.33）、県央地区（2.00）は他の地区より多くなっており、県南地区は警報開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

★トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

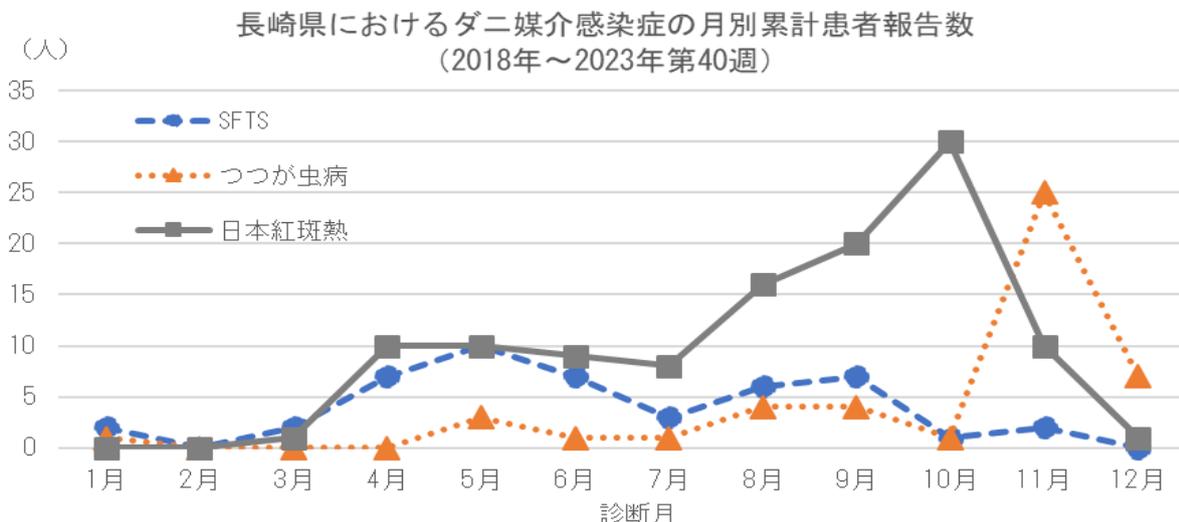
マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

2023年は第40週までに、10例のSFTS、6例のつつが虫病、13例の日本紅斑熱の患者が県内で発生しています。

春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。特に日本紅斑熱は、過去5年において、10月に最も多く患者が報告されています。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県感染症対策室 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>



☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第40週の定点当たりの報告数は、「8.09」で前週より減少しました。第36週（9月4日から9月10日）より集計が開始された2023/2024シーズンにおいては、昨シーズンから流行の目安である「1.0」を超えた報告数が継続していましたが、9月に入ってから患者数が急激に増加し、第39週に注意報レベル基準値「10.0」を上回ったことから、県感染症対策室は10月5日に**インフルエンザ流行の注意報**を発令しました。

地区別にみると、県北地区（13.25）は、5週続けて警報レベルの報告数となっています。また、佐世保地区（14.82）、県央地区（12.91）も注意報レベル基準値を超えています。

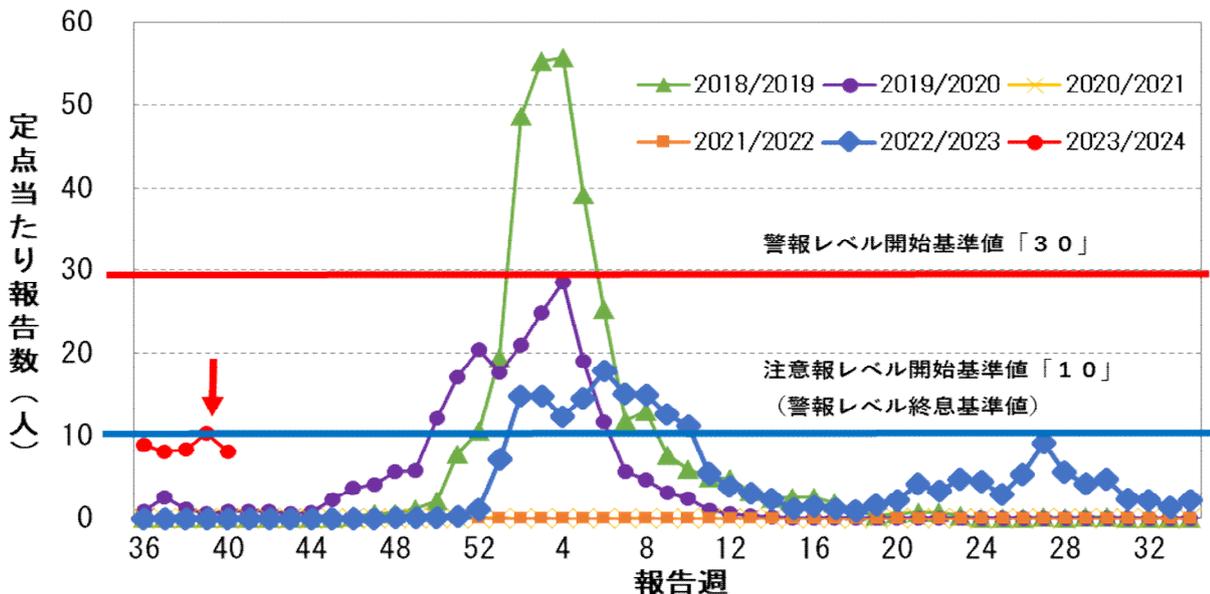
年代別にみると、10歳未満、10代の報告数が多くなっています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

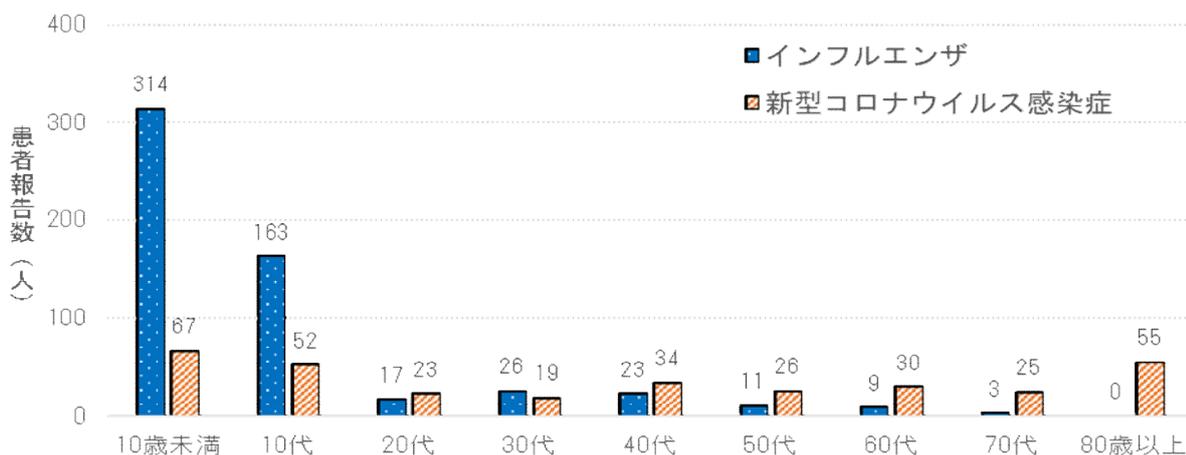
(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



長崎県における年代別患者報告数



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第40週：10月2日から10月8日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

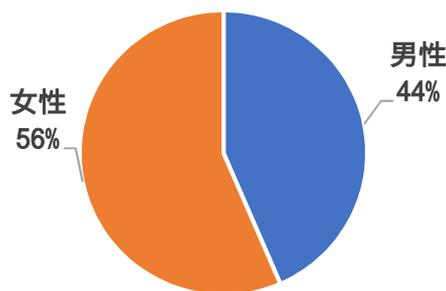
5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第40週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「9.46」より減少し、「4.73」でした。年齢別では、10歳未満が多くなっています。

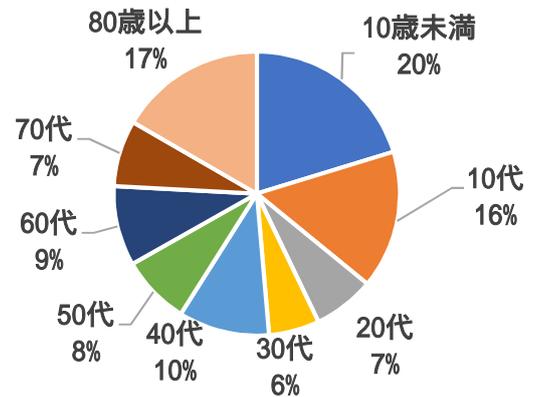
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	331	55	34	9	34	39	18	5	82	39	16
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	4.73	3.24	3.09	1.50	3.09	4.88	4.50	1.25	27.33	13.00	5.33

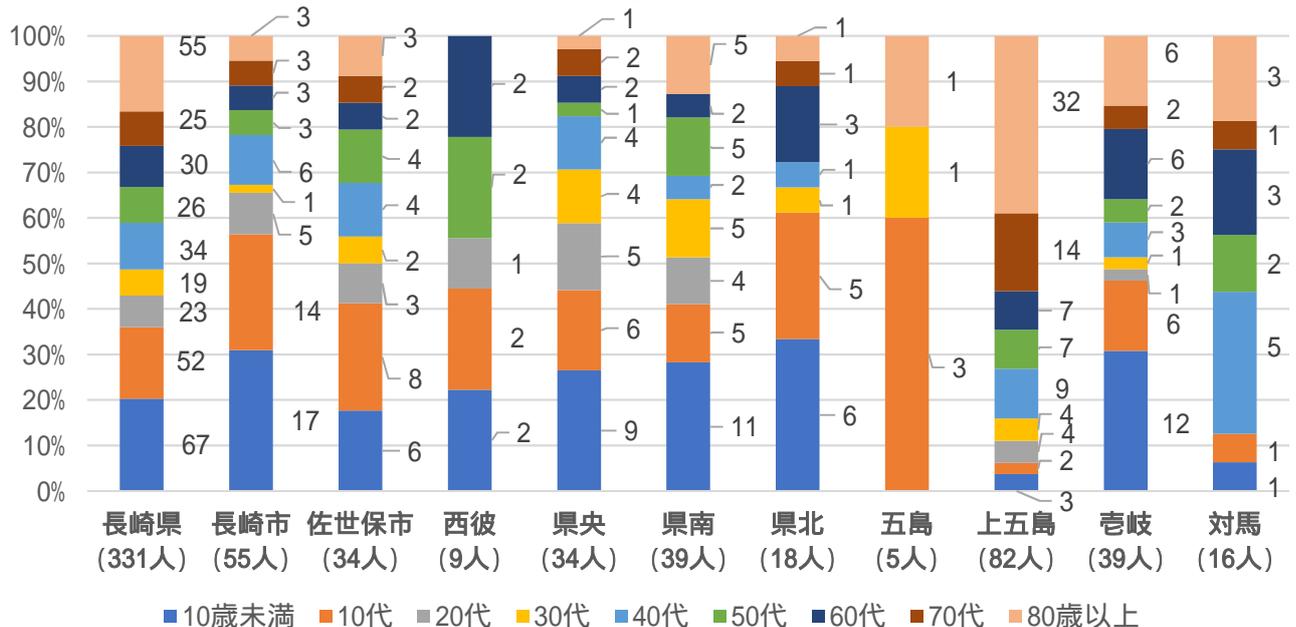
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

